

## 【近畿 ESD コンソーシアム・学生による ESD 活動書】

### 郡山中学校フィールドワーク支援 活動報告書

数学教育専修 2 回生 奥村壮之佑

1. 実施日 2024 年 3 月 27 日(水)

2. 場所 金魚資料館、こちくや、郡山城跡

3. 参加者 大学院 2 回生 井上 岳海  
社会科教育専修 3 回生 木幡 美幸  
数学教育専修 2 回生 奥村 壮之佑  
家庭科教育専修 2 回生 光延 ひなた



金魚すくいの様子

#### 4. 活動の概要

2024 年 3 月 27 日に、金魚資料館・こちくや・郡山城跡で郡山中学校の生徒が大和郡山市の魅力を見つけることを目的とした校外学習「郡山ぶらり旅」を行い、その支援として、本学ユネスコクラブの学生が参加した。活動支援の具体的な内容は、中学生の様子を記録するとともに、中学生と同じ目線で、ガイドの方の話から大和郡山の魅力を見つけることなどであった。

#### 5. 参加者の学び・感想

「郡山ぶらり旅」を通して、中学生と現地を案内してくれるガイドの方を繋ぐ難しさを感じた。特に、郡山城でのガイドの方の案内は、生徒目線からすれば非常に難しい言葉や内容が散見された。そのような時に、教員あるいはボランティアの学生が、中学生がわかりにくそうにしているところを、わかりやすい言葉や、イメージしやすいものに変換して伝えてあげることが大事であると感じた。また、ガイドさんと入念な打ち合わせをしておく必要性も感じた。

しかしながら、今回参加してくれた中学生は、郡山市に対して関心を高め、郡山の良いところや伝統に気付き、深めようとしている姿勢が見られたことが、今後の探求学習などにつながっていくのではないかと思う。 (大学院 2 回生 井上 岳海)

この活動を通して、フィールドワークにおける教員の役割について学んだ。例えば、フィールドワークのテーマを意識し生徒の思考を刺激するような問いかけをすること、施設の方のお話を聞き生徒の思考を広げるような質問をする等だ。

道中の安全確保だけでなく、適度に水分補給を促す、休憩をとることも生徒がより長い時間集中して学べるように必要なことだと学んだ。

また、フィールドワーク前に生徒にフィールドワークの目的を伝え、動機付けを行うことやフィールドワーク後は得た学びを活かす学習活動も重要であると考えた。

今後、フィールドワークに参加させていただける機会があれば今回の学びを活かしたい。  
(社会科教育専修3回生 木幡美幸)

「郡山ぶらり旅」支援を通して感じたことは、生徒に話をする際、いかに生徒目線で考えて話せるかが大切になるということである。支援をする中で、生徒が話を聞いている時にメモをとっていない場面があった。話が聞き取りやすい速度や簡単に理解できるときは、生徒のメモを取る速さは速かった。それに対し、難しい話をひたすら話し続けられたときは、メモをとれている学生は少なかった。加えて、一部の興味のある生徒を除けば、ただただ聞いているだけであるように感じた。それを改善するため、難しい内容であれば時間を取って話したり、詰め込んで話すのではなく内容を絞ったりする必要があると思った。  
(数学教育専修2回生 奥村壮之佑)

郡山ぶらり旅支援を通して感じたことは、生徒に「何を学ぶのか」ということを具体的に示すことが難しいということである。

支援を行う中で、生徒たちに「メモできている〜?」というような声をかけたときにどのようなことをメモしたらいいのか分からないというような主旨の返答が多かった。

事前に生徒がそれぞれこの旅を通してどのようなことを知りたいかを具体的に決めておくことや、教員側がある程度具体的に示すことで、どのようなことをメモしたらよいか等がわかりやすいのではないかと考えた。しかし、教員からある程度具体的に示したものを提示してしまうと生徒の学びも制限されてしまうこともあると考えられるため、「何を学ぶのか」を示すことの難しさを感じた。

(家庭科教育専修2回生 光延ひなた)